

平成30年度教育委員会の事務の点検および評価報告書（案）に対する各委員からの意見

1 配付資料についての意見・疑問点

(1) 全体

- ①報告書を見ることによって、教育委員会における数多くの事業が、どの課が中心となり、どのような目標をもって、どのように取り組まれているのかがよくわかりました。
- ②施策それぞれについて評価がなされ、さらにその妥当性、効率性、有効性といったところまで実に緻密に評価しているところは素晴らしいと思いました。
- ③事務事業の取組内容についての評価と施策評価の整合性が図られているところ、さらにはその根拠となる「事務事業のデータ」が数値で示され、信頼度をより高めていることに感心しました。報告書を見る多くの方は、文章で示された評価内容よりもこの「事務事業データ」に目をやり、評価判断するだろうと思います。とりわけ生涯学習部の所管事項については、個々の事業について「主な事務事業データ」がしっかりと示されていることから、大変説得力のある点検評価となっていると思います。
- ④一方で、学校教育の施策に関する「事務事業のデータ」について、学校教育の教育事業等については数値的に示すことの難しいものも多く、生涯学習と比較されるとどうしても見劣りしてしまいます。しかし、実際に取り組んでいる事実があるわけですから、何らかの工夫ができないものかと期待します。出せば出したで問題になるといった思いがあるかもしれませんが、今日の説明責任とかエビデンスなどといった考えからすると、積極的に数値で示す工夫に取り組む必要性を強く感じます。

「平成29年度の取組の概要」に示された内容の表現と、「評価」に書かれた内容の表現がほぼ同じようなところが数か所見られ、少々気になりました。例えばP53では、その有効性については、評価が「b」となっており、そのあたりどのように解釈すればよいのか。また、P54の「主な事務事業データ」には「アクティブラーニング研修会」のことが書かれているが、施策、取組内容のどこを見てもアクティブラーニングには触れていない。教育に関係したものにはわからないではないが、素人が見てもわかるように表現しなければならぬのではと思いました。
- ⑤すべての点検・評価についていえることですが、平成29年度単年度の評価であり、比較がないので、読み手としては記載の通りなのだろうと考えます。ただ、評価が昨年度（28年度）と比べてどうだったか気になる人にとっては昨年度の評価を併記してほしいのではと思います。さらに昨年度と比較することによって上がった場合、下がった場合の考察や今後の取組の方向がより具体的に記述できると考えます。
- ⑥例えばP14の家庭教育支援事業の推進について言えば、『家庭教育セミナーを開催するなど家庭教育支援の推進を図った』観点からはa a aで妥当と考えます。ただ、過去のデータを見ると平成23年度は622人（15回）に対して29年度は165人（8回）と3分の1になっています。年々減っている理由や家庭教育セミナーの回数の妥当性が資料からは読み取ることができません。

(2) 教育委員会の活動状況について

- ①会議の公開、会議録の公表、委員も公募による選出など透明性が高い。
- ②所管施設訪問において、義務校（小中学校）が中心となっているが、高等学校（市立函館）への訪問も検討すべきである（平成29年度は1回（資料では））。

(3) 教育委員会の施策について

ア 生涯学習の推進

- ①基礎、人材育成、推進体制の充実が順調に進んでいる。しかし、施設の再編・整備においては、総合博物館を中心に有効に活用する方策を検討すべきである。
- ②社会教育事業の推進と施設の再編・整備について、図書館や博物館など文化系施設は充実していると思いますし、今後も力を入れていただける事と思います。今後は青少年科学館や未来館など理数系の学習や学びに興味を示すことが出来る施設があれば良いと考えます。また国際海洋都市として水族館などの海洋研究の施設も有って良いのではないのでしょうか。
- ③日頃より教育委員会の皆様には市PTA連合会への支援等頂いている所ですが、今後更なる連携を考えると保護者の意見をなるべく多く取り入れてもらえるような環境が必要ではないだろうかと考えます。市PTA連合会へ外部役員という形で教育委員会の方が参画し、年に6回ある市PTA連合会の役員会にご出席頂き保護者の声を行政に届けるなどの工夫が必要になるのでは無いかと考えます。

イ 文化芸術の振興

- ①市民の文化芸術活動への支援、鑑賞機会の充実への取組など有効性も高いものがある。今後より一層、市民の文化芸術が拡大するためにも、アートマネジメント人材の育成に取り組んで行くべきである。
- ②優れた鑑賞事業の提供について、妥当性・効率性・有効性すべて「a」になっていますが、現在市民会館がクローズの状態を決して充実しているとは言えない。また、北斗市と比べて函館市は質の高い文化芸術に触れる機会は少ない。
- ③文化芸術関連施設の改修・整備について、財源および緊急度、優先度を考慮しながらとあり、これもすべて「a」になっていますが、将来性も考えた整備をすることはできないのでしょうか。
- ④青少年芸術教育の奨励について、「青少年芸術奨励事業」は、文学、書、美術、音楽の4部門ですが、舞踊の部門はなぜ入っていないのでしょうか。中学校ではダンスの授業も入ってきていますし、函館では日舞や洋舞などに活発に取り組んでいる子どもたちがたくさんいると思う。

ウ スポーツ・レクリエーションの振興

- ①函館マラソンの実施・スポーツクラブの育成など生涯スポーツの活動の促進、ポロスポーツイベント誘致などの競技スポーツ活動の促進は順調に進んでいる。
- ②スポーツ・レクリエーション環境の充実について、競技スポーツとしてでは無く、趣味としてスポーツに触れ児童生徒の体力向上の一助となる様な施策が大事になると考えます。市内

の公園でボール遊びが出来るよう公園整備が必要ではないでしょうか。

- ③障がいのある人のスポーツ活動の促進では、施設の確保や指導者の育成に努め有効性を高めるべきである。
- ④障がいのある人のスポーツ活動の促進について、各種大会への参加促進についてですが、全道・全国大会の開催を函館に誘致し、全道・全国のレベルに触れることにより競技への理解や参加意欲の向上につながるのではないかと。
- ⑤児童生徒のスポーツ活動の促進では、働き方改革の関係から部活動外部指導者のより一層の拡充に努めるべきである。
- ⑥児童生徒のスポーツ活動の促進について、教員の働き方改革や北海道アクションプランが策定され部活動の時間にも制約が出てくることが予想されますので、計画的・長期的な部活動運営が求められると同時に、部活動に所属する児童生徒の保護者への理解と協力を求める必要があると考えます。

エ 文化財の保護活用

- ①縄文文化遺跡群は、外国人観光客が増加している函館においてより一層魅力を PR できるため、関係機関と連携し保護・有効活用に努めるべきである。
- ②特別史跡五稜郭の保存整備の推進について、函館市が誇る史跡であると同時に、市民が集うランドマークとしての役割が大きい五稜郭であり公園としての整備も必要であると思います。外周を歩く人、走る人、自転車に乗る人等狭い遊歩道に様々な人が行き来しています。事故が起こる懸念もありますので、整備などをして頂けるとありがたいと思います。

オ 幼児教育の充実

- ①幼児一人ひとりの発達段階に応じた取組を行っており評価できる。今後も地域、小学校そして保育所との連携により一層努めることを期待する。
- ②自身はこども園に勤務していますが、なかなか小学校との連携が図れません。学校評議員会ともつながっていき、こども園の教育・保育と小学校教育との円滑な接続を目指したいのですが、「幼児教育の充実」を読んでも現場のものには、成果として感じられませんでした。円滑な接続に向けた連携を実現できるようにしてほしいところです。
- ③昨今の抵抗のできない幼児に対する親の虐待の話を聞くと心が痛みます。幼児教育の大切さを訴えるのと同時に、保護者に対して命の大切さ、人間の尊厳などといったものを訴える機会を様々な地域連携の中で設ける必要はないだろうか。また、小1プロブレムなどへの対応については、幼稚園を小学校の双方向からの課題解決に向けた積極的なアプローチが大切で、そうしたところへの教育委員会のマネジメント力の発揮を期待したい。

カ 義務教育の充実

- ①新学習指導要領の実施に向け、学力の三要素が着実に育成されるよう成果指標を定め、きめ細かな指導・助言を期待する。
- ②学力向上非常勤講師の配置は新規の事業なので、新規であることがわかる記述にしてみても

どうかと考えます。

- ③学力の定着状況及び日常の授業改善に向けた種々の取組（学力向上プロジェクト推進委員会での分析、学校教育指導訪問の計画的実施、アプローチの発行、各種研修会の開催等）により、教員個々の指導する側としての意識と実践的指導力の向上が確実に図られていると考えます。また、ICT機器・ソフトウェア等の整備や研修を行うことで、子どもにとってわかりやすく、理解が深まる授業実践につながっています。
- ④食の安全の確保に関しては、29年度は賞味期限の食材使用や異物混入事故が起こっており、そのことがしっかりと記載されているのがいいと思います、評価も適切であると考えます。
(28年度 a a b → 29年度 b b b)
- ⑤食育の重要性について、大人になると、食、健康に関心のある方は、自主的にセミナーなどへ参加し、学習されます。しかし、関心のない方は、生活習慣病に係るリスクが高く、食生活の改善においても知識がないのでわからない。そのため、学校での食育は、学んだ経験があれば、思い出すことができる。健康につながる食に対する関心・興味を引き出すことがとても重要と思います。
- ⑥和食給食の推進について、日本人の食文化の“素晴らしさ”とありましたが、間違いではありませんが、“素晴らしさ”＝“原点”ではないかと考えます。毎月1回の「和食の日」給食の評価実施と家庭における食育推進に努めたという箇所の、家庭にどう伝える努力がなされたのか、どの程度伝わった感触があるのか、有効性がbになっている理由も併せて説明がほしいです。
- ⑦再編については、子どもたちに良好な教育環境の提供するために学校規模の適正化を図るという目的のもと、計画的に実施されていると思います。今後も、通学路の保全・通学法等に十分配慮しながら順次再編を進めていっていただきたいと思います。
- ⑧いじめ・不登校について、いじめ撲滅運動やSCの活用などを行っており評価できる。今後も有効な取組の継続を期待する。
- ⑨問題行動の複雑化など、学校だけでは対応・解決が困難なケースに関して、今後も学校と関係部署・機関等が連携を密にし、適切な状況把握・判断のもと事案に応じた対応が重要と考えます。
- ⑩創造性をはぐくむ教育については、函館市の具体的な取組がわかりませんでした。現在、レゴマインドストームを取り入れて大学などとも連携して学習を行う小中学校も多いそうです。これからプログラミングの授業も始まりますし、とてもいい学習だと思います。函館には未来大学があります！
- ⑪評価、今後の取組の方向に関して、子どもたち（児童・生徒）も理解できる、それに向かって頑張ることができる各施策（関係する事業）の簡単な「紹介パンフレット（リーフレット）」等も大切かと思えます。
- ⑫中学生海外派遣事業の実施について、私は第1回の時に中学生3年生で参加させていただきましたが、その時はオーストラリア、中国、ロシアから自分の希望の国を選びました。現在はロシアだけになってしまったのでしょうか。とてもいい事業だと思うので縮小しているのが残念です。
- ⑬教育相談・教職員研修の充実について、「評価」の有効性のところに記載されていますが、市立高校でピアサポート事業が充実しているのは本当に素晴らしい取り組みをされている

ると思う。これからはよりピアサポート活動が他校にも広がっていけばいいと思う。そのためには市内でピアサポーターの養成や研修の機会があればいいと思う。

- ⑭地域とともにある学校づくりの推進について、コミュニティ・スクールは導入して間もない学校がほとんどでまだまだ手探り状態の学校もあると思います。早期に成果を求めずじっくりと取り組んでもらいたい。地域との連携・協働を更に充実したものにすべく取り組んで頂くことにより地域での子育てを実現して頂きたい。
- ⑮コミュニティ・スクールにおいては、学力の向上のため小中学校の連携だけではなく地域の教育力（高等学校、大学など）を活用する方策を検討すべきである。
- ⑯28年度が『地域と共に歩む教育の推進』、29年度が『地域とともにある学校づくりの推進』に変わり、CSや小中一貫教育を強く取り上げているので大きく評価される項目と考えます。30年度はCS本格実施の小中学校が大幅に増えますので、さらに記述内容が充実するものと思われます。
- ⑰小中一貫教育に向けた取組では、初期段階として同一中学校区内における各学校での教育目標とめざす子ども像の共有、さらに学校段階及び学年段階での役割と組織（小委員会等）の構築、指導内容の確認などが具体的に進められてきているところす。今後は、コミュニティ・スクールとの関係性を有効に活かしながら、地域の特性や事情を考慮しつつ、積極的な考え方のもと実行可能な体制づくりを図っていかねばならないと考えます。そのためにも、実践校の五稜郭中学校、及び他地域の取組の紹介等を含めた研修が大変参考となっていますので、今後も、引き続き研修の開催をお願いしたいと思えます。
- ⑱市民が主体的に社会に関わり、活力ある地域社会を創り出していくために、郷土の歴史や文化を誇りに思い、地域の発展を支える人材の育成が大事だと思います。
この意味で、「義務教育の充実」の「地域とともにある学校づくりの推進」で、「箱館奉行所」や「縄文文化交流センター」を活用した取り組みや、特に、教育大学、未来大学の学生ボランティアの活用は、子供達がふるさとへの理解を深めるのにとっても効果的であったと思います。
さらに望めば「教職員研修の充実」の市独自の特色ある研修として、今後、函館学の概要の一部でも取り入れていただき、生徒に直接触れ合う先生方に函館の知識をより深めて頂く機会が増えれば、さらにこの取り組みが充実したものになると思います。
SNS等情報技術の進展で、だれもが情報を発信する時代となり、仮に将来、函館から出ていく子供にも、それぞれのフィールドで、自分の言葉で「函館」を語ってもらえるような、知識なり経験をしてもらうことが、将来の函館にとって重要な要素になると思います。

キ 高校教育の充実

- ①函館学の実施など地域の特性を活かした取組がなされ、一定の成果が上がっており評価できる。
- ②学校評議員会との連携により、地域の声を学校経営に反映させており特色ある学校づくりが進められている。市立高校であるのでさらにコミュニティ・スクールなども検討し、小中学校との連携を視野に入れた特色ある学校づくりを進めて欲しい。

- ③進路指導は、きめ細かく行われ充実しているので評価できる。
- ④グローバル人材の育成を進める上で、函館学は充実しておりその役割を果たしている。しかし、両輪となる国際理解教育においては、教育課程における科目の設置や授業方法（少人数教育、ALTの配置）に止まっている。より一層、語学力の向上を図るための取組を検討すべきである。
- ⑤教育相談体制の充実では、SCなどの配置や研修が進められ一定の成果が上がっており評価できる。より一層、いじめや不登校などに対応する体制の構築に努めて欲しい。

ク 特別支援教育の充実

- ①支援員の配置や教員の研修機会の設定などにより支援体制の充実が図られている。今後、より一層関係機関との連携を進め、切れ目のない支援を期待する。
- ②特別支援教育支援員の配置については、子どもの特性・教育的ニーズに応じて学習や生活の支援を行い、そして一人一人の能力を確実に伸ばしていくための重要な取組です。今後も、人員の確保と有効活用をお願いしたいと思います。
- ③特別支援教育に関しては、特別支援教育支援員の配置、特別支援教育サポートチームや特別支援教育巡回指導員の活用、そして発達障害者支援センター等各種専門機関等との連携など、二重三重の支援体制を整えてその充実を図っており、教育委員会が現場のニーズに応えようとしている姿勢が十分にうかがえる。今後においても、手を控えるようなことなく積極的に関わっていただきたい。

ケ 教職員の人事管理

- ①サービスの徹底については、資料を作成し継続指導していることから評価できる。
- ②学校現場における服務等管理についての問題は、本市においても時々新聞等において知ることができる。報道されるような事例は割合大きな問題で、ヒヤリハットの微妙な問題は日常的にあるのではないかと推測する。服務に関する問題には、とりわけ開かれた学校という状況そのものが有効であり、また管理職と一般教職員との適度な緊張関係もよりよい効果を導くものと考ええる。チーム学校の持つ良さはコミュニティ・スクールの取組によってより一層高まるものと考ええる。

コ 学校現場における業務改善方策の検討

- ①教育委員会が率先して取り組んでおり評価できる。部活動休養日や学校閉庁日などの施策が学校現場と乖離しないよう業務の削減を第一に進め、業務改善を行うことを期待する。
- ②29年度、他の自治体に先駆けて、函館市教育委員会が推進した事項であり、評価される項目であると考えます。

2 点検評価の見直しに関する意見等 【現状に対する意見等】

- ①事務事業の取組内容についての妥当性，効率性，有効性を視点とした評価欄が設けられているところがとても分かりやすくよいと思います。
- ②評価が「a」「b」がほとんどで，少し疑問に思うし，逆にわかりづらい。
- ③29年度の猪上徳雄氏のご意見に「点検評価はともすると成果が上がったことの報告書を作成することが目的になりがちであるが」とありましたが，私も評価報告書について意見を同じく持ちました。改善を図ることも重要ですし，取り組みが一方的な目標になっていないか，アンケート等で確認していくことも必要ではないかと考えます。

【見直しに関する意見等】

- ①特にありませんが、函館市教育振興基本計画が30年度から新しくなり、それにもとって評価項目が一新されるのかどうか疑問です。
- ②具体の施策ごとに総合評価と今後の方向性が示されている。また、主な事務事業についても評価がなされている。できれば、取組、成果について具体的な数値目標が設定できれば、より達成度合いなどが分かりやすく、課題と次年度の方向性も決めやすいのではないかと。また、評価を学校をはじめとする関係機関も行うことも検討すべきである。